

1. 科目名 (単位数)	現代社会と社会教育 (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3445
2. 授業担当教員	川野 佐一郎		
4. 授業形態	講義と討議、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	現代社会は変化の激しい時代である。国内だけでなく国際社会の変動が人々の生活や価値観に大きな影響を与えている。そのため、今までになかった新たな課題が生じている。このような現状において、社会教育は「人々の多様な学習要望を踏まえた生涯学習の振興」に努めるとともに、「地域の活性化や家庭の教育力の向上」等の社会の要請に適切かつ迅速に対応する支援の遂行が求められている。そこで、本科目では社会教育についての理解を深めるとともに、身近にある様々な現代的課題解決のための具体的な支援方策について、事例研究やグループ討議を通して追究し、個別事業計画を立案する。		
8. 学習目標	次の目標を達成することを目的とする。 ①現代社会が抱える様々な課題、地域特有の課題の背景や特徴を理解することができるようになる。 ②社会教育とは何かを理解するとともに、現代社会の課題解決に向けた社会教育の役割について理解することができるようになる。 ③社会教育の当面する課題と課題解決に向けた諸施策について理解し、説明できるようになる。 ④社会教育の推進者の役割や社会教育施設の現状と目的について理解することができるようになる。 ⑤身近な現代的課題に対応した具体的方策（個別事業計画）を立案することができるようになる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	① 課題レポート作成のため、地域での社会教育実践や学習活動に参加してみる。 ② 授業内容に関わる調査研究及び資料収集を積極的に行う。 ③ 授業内容の理解・確認のため、学期末レポートを実施する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】辻 浩著『現代教育福祉論—子ども・若者の自立支援と地域づくり—』ミネルヴァ書房、2017。 【参考書】社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック第9版』エイデル研究所、2017。 丸山英樹・太田美幸編『ノンフォーマル教育の可能性』新評論、2013。 【教材】プリント資料（必要に応じ作成し、授業時に配布する）		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 社会教育に関する目標・内容・方法について理解し、具体的に説明できる力を身につけたか。(知識・理解) 2. 現代的課題をふまえた社会教育のあり方について理解した上で、適切なテーマを設定し、学習講座等を企画できる力を身につけたか。(思考力・判断力・表現力) ○評定の方法 【授業への取り組み姿勢、授業内での課題提出、期末レポート等を総合して評価する。】 1. 授業への取り組み姿勢 総合点の30% 2. 授業内での課題提出（小テスト・課題レポート・企画書作成等） 総合点の40% 3. 期末レポート 総合点の30%		
12. 受講生へのメッセージ	授業内の相互学習を踏まえ、可能な限り、社会教育実践の現場に足を運び、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会をつくるようアドバイスする。理論的な学習とともに、実際の活動から得られるヒントは貴重なものである。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間ほか		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	ガイダンス（授業の進め方の説明）、自己紹介 （おとなが学ぶ意味と学習活動への参加）	事前学習	学校教育と社会教育の相違点や共通点について考える。
		事後学習	おとなが学ぶ意味について整理し、その機会や参加動機を把握する。
第2回	社会教育職員の仕事・資格・資質・役割	事前学習	社会教育主事資格課程の受講動機や、授業への関心を整理する。pp.155～172
		事後学習	社会教育主事・社会教育職員の仕事や役割について理解する
第3回	参加型学習の国際的動向	事前学習	国際的にもなぜ参加型学習が求められるのか調べる。pp.27～41
		事後学習	生涯学習社会の実現をめざす教育の国際的動向について整理し、まとめる。
第4回	ノンフォーマル教育の可能性	事前学習	フォーマル教育、インフォーマル教育との違いを調べる。
		事後学習	地域社会における多様な学びの機会すなわちノンフォーマル教育とは何かを理解する。
第5回	日本の社会教育の歴史・法制度・政策展開	事前学習	日本の社会教育の歴史と相互学習、共同学習との関連を考える。pp.12～26
		事後学習	社会教育における法制度、政策、理念、歴史的展開について整理する。
第6回	地域社会教育の現代的課題と学習① （子ども・青少年の学びと社会教育の役割）	事前学習	子どもの貧困、虐待など進捗中で児童の権利擁護の視点から考える。pp.42～60
		事後学習	子ども・青少年はどのような教育環境におかれているか、社会教育の視点からまとめる。

第7回	地域社会教育の現代的課題と学習② (障がい者社会教育の実践)	事前学習	障がい者社会教育の概念、現状、あるべき姿について調べる。 pp. 61～77
		事後学習	社会的排除されている人たちの学習権について共生の観点から整理し、まとめる。
第8回	地域社会教育の現代的課題と学習③ (高齢者の学びと社会教育の役割)	事前学習	人は老いてもなぜ学びの機会を求めるのか、発達と成長ということに関して調べる。pp. 78～91
		事後学習	高齢者の特性、経験から生涯を通して学び続ける学習関心について考える。
第9回	地域社会教育の現代的課題と学習④ (コミュニティワークの教育的実践)	事前学習	教育とコミュニティワークの相違点共通点について考える。
		事後学習	地域福祉と地域社会教育、ともに専門職の学習支援から整理し、まとめる。
第10回	地域社会教育の現代的課題と学習⑤ (地域づくり、地方創生と社会教育)	事前学習	今日の地域の活性化を図るため地域づくり、地域創生が言われる。内容について調べる。
		事後学習	産業や地域振興と市民活動を中心とした社会教育の連携がどうあるべきかまとめる。
第11回	地域社会教育の現代的課題と学習⑥ (学校と地域社会の連携)	事前学習	学校と地域の連携は古くて新しい問題である。今日、地域の実情、実態を調べる。pp. 173～187
		事後学習	国の政策として新たな連携策が求められている。その内容と考え方を整理し、まとめる。
第12回	地域社会教育の現代的課題と学習⑦ (NPO, NGO, ボランティアとの協働)	事前学習	自主的な市民活動が各地で芽生えてきている。協働、共同、協同の意味について調べる。pp. 188～204
		事後学習	市民活動の胎動とともに、新たな公共の責任、役割について整理し、まとめる。
第13回	地域社会教育の現代的課題と学習⑧ (大学と地域の連携、大学コンソーシアムの役割)	事前学習	少子・高齢化、人口減少時代における大学の役割について社会教育の視点から考える。
		事後学習	新たに大学の人材やノウハウを活用したコンソーシアム及び大学開放について整理する。
第14回	地域社会教育の現代的課題と学習⑨ (健康・スポーツ活動と社会教育)	事前学習	人びとの健康志向、スポーツへの関心はなぜ高まるのか調べる。
		事後学習	健康・体力向上のみならず交流、仲間づくりに果たす社会体育の意義をまとめる。pp. 122～138
第15回	まとめとふり返り: 専門職として取り組むべきこと (要求課題と必要課題)	事前学習	改めて市民の学びを支援する専門職の資質、役割について考える。
		事後学習	学習者が求める要求課題と支援者が提示する必要課題の関係などを整理し、まとめる。